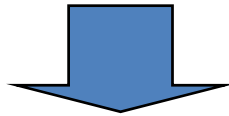


# 救急業務に関する基本資料

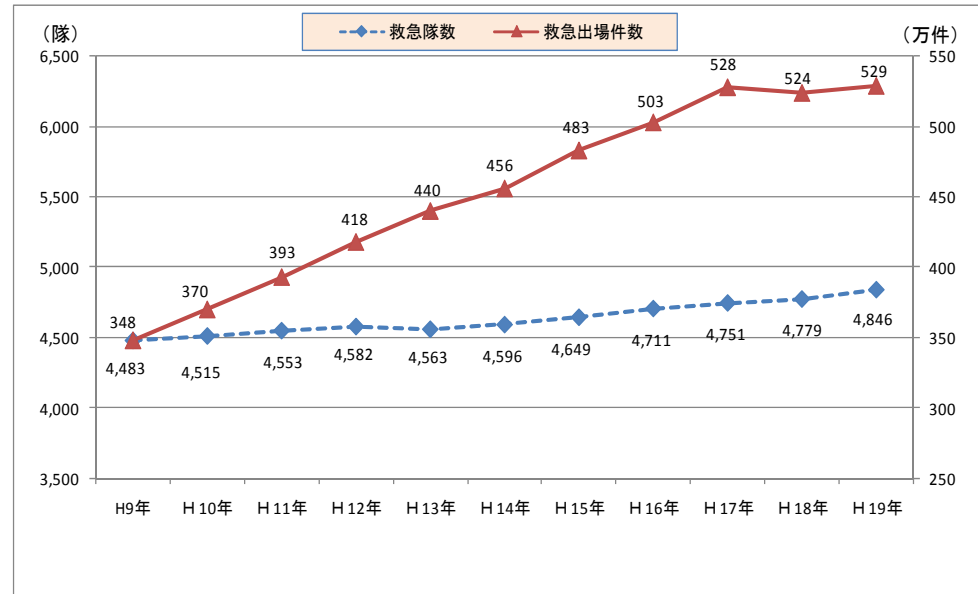
# 救急搬送の現状

- 救急出場件数は10年間で52%増加する一方、救急隊数は8%の増加にとどまる。
- 救急搬送における受入医療機関の選定に長時間を要する事案が多発している。

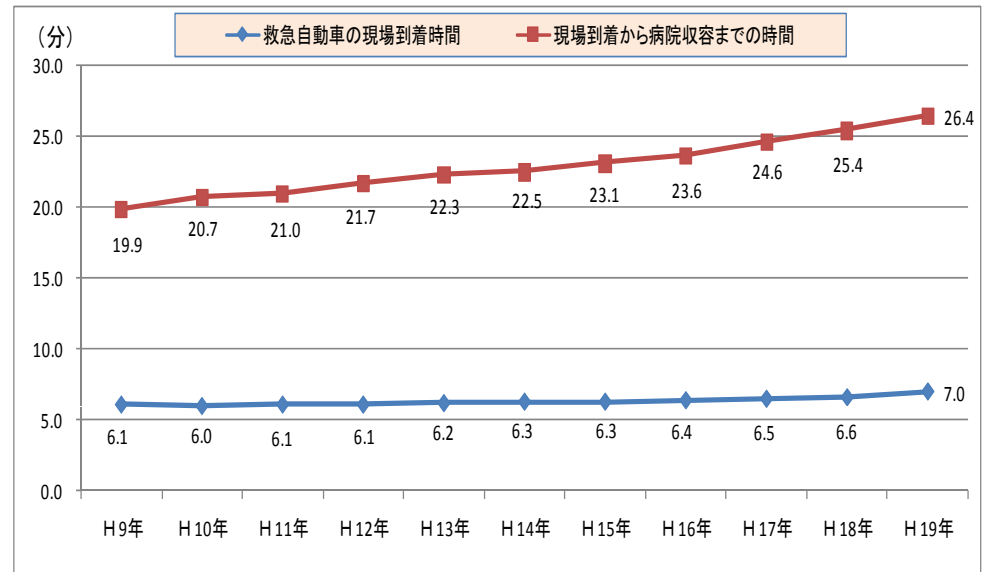


- 平成19年中の救急車の現場到着時間は7.0分で、10年間で0.9分遅延している。
- 現場到着から病院収容までの時間は26.4分で、10年間で6.5分遅延している。

## 救急隊数と救急出場件数の推移



## 救急隊の活動時間の推移



# 救急搬送における医療機関の受入状況(重症以上傷病者)

○ 医療機関の照会回数4回以上の事案が14,387件(全体の3.9%)あり、現場滞在時間30分以上の事案が15,656件(4.0%)ある。

医療機関に受入の照会を行った回数ごとの件数

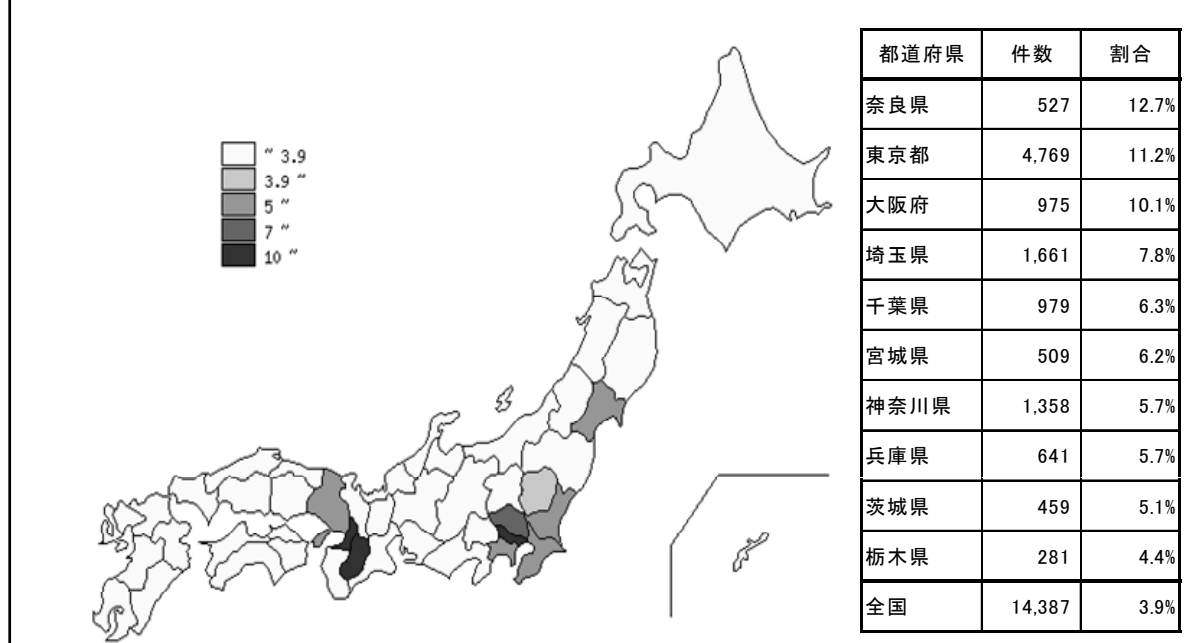
	1回	2~3回	4~5回	6~10回	11回~	計	最大照会回数
件数	309,230	44,609	8,989	4,324	1,074	368,226	50
割合	84.0%	12.1%	2.4%	1.2%	0.3%	100%	

現場滞在時間(現場到着から現場出発までの時間)区分ごとの件数

	30分未満	30分以上	60分以上	90分以上	120分以上	150分以上	計
件数	372,327	13,935	1,316	252	88	65	387,983
割合	96.0%	3.6%	0.3%	0.1%	0.02%	0.02%	100%

○ 首都圏、近畿圏等の大都市部において、照会回数の多い事案の比率が高い。

照会回数4回以上の事案の割合が全国平均を上回る団体:重症以上傷病者(平成19年)



# 救急搬送における医療機関の受入状況(産科・周産期傷病者)

○ 医療機関の照会回数4回以上の事案が1,084件(全体の4.8%)あり、現場滞在時間30分以上の事案が1,331件(5.7%)ある。

○ 首都圏、近畿圏等の大都市部において、照会回数の多い事案の比率が高い。

○ 照会回数4回以上の事案数は増加している。

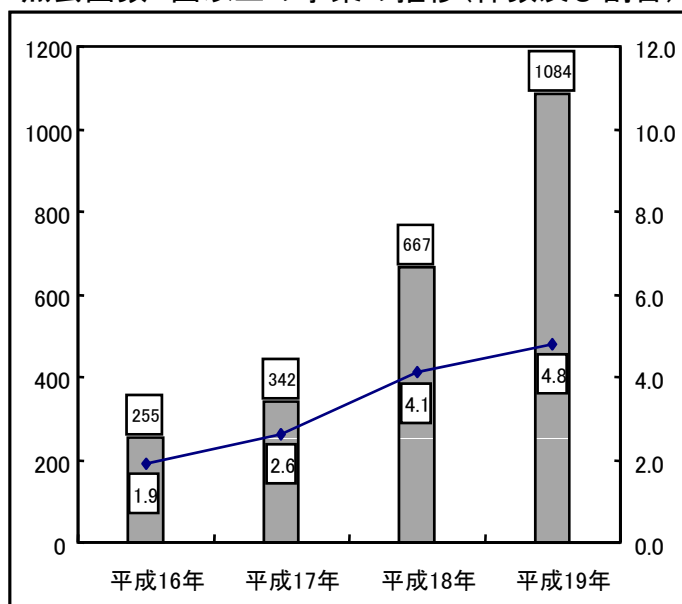
医療機関に受入の照会を行った回数ごとの件数

	1回	2~3回	4~5回	6~10回	11回~	計	最大照会回数
件数	18,500	2,944	721	310	53	22,528	43
割合	82.1%	13.1%	3.2%	1.4%	0.2%	100%	

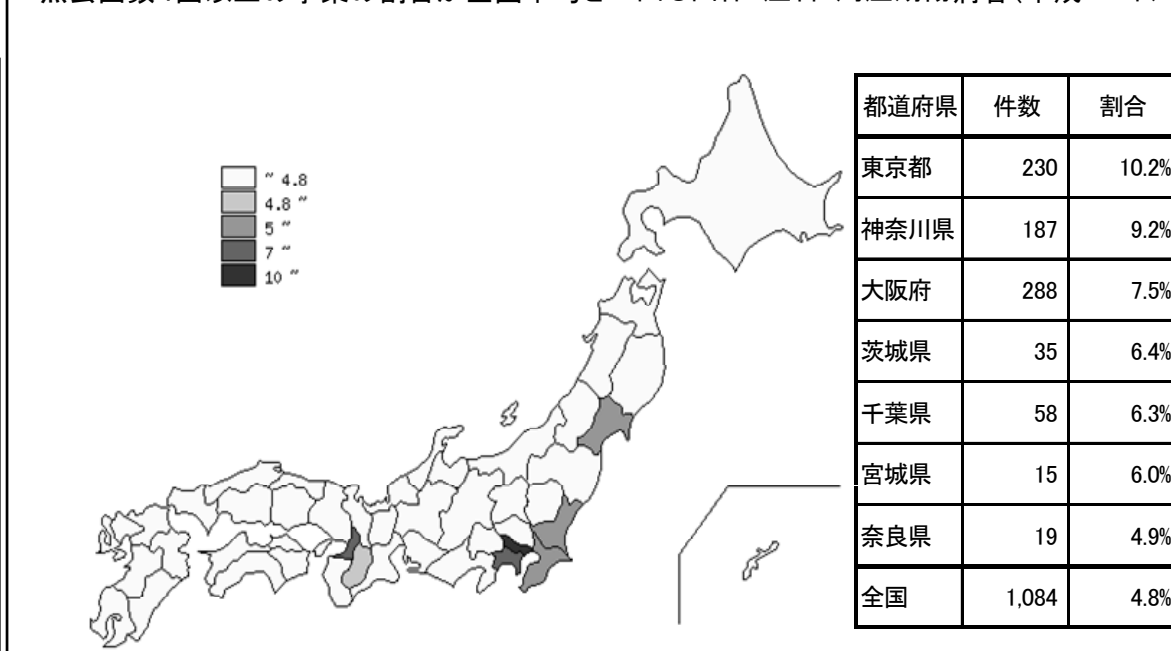
現場滞在時間区分ごとの件数

	30分未満	30分以上	60分以上	90分以上	120分以上	150分以上	計
件数	22,159	1,224	83	16	9	3	23,494
割合	94.3%	5.2%	0.4%	0.1%	0.04%	0.01%	100%

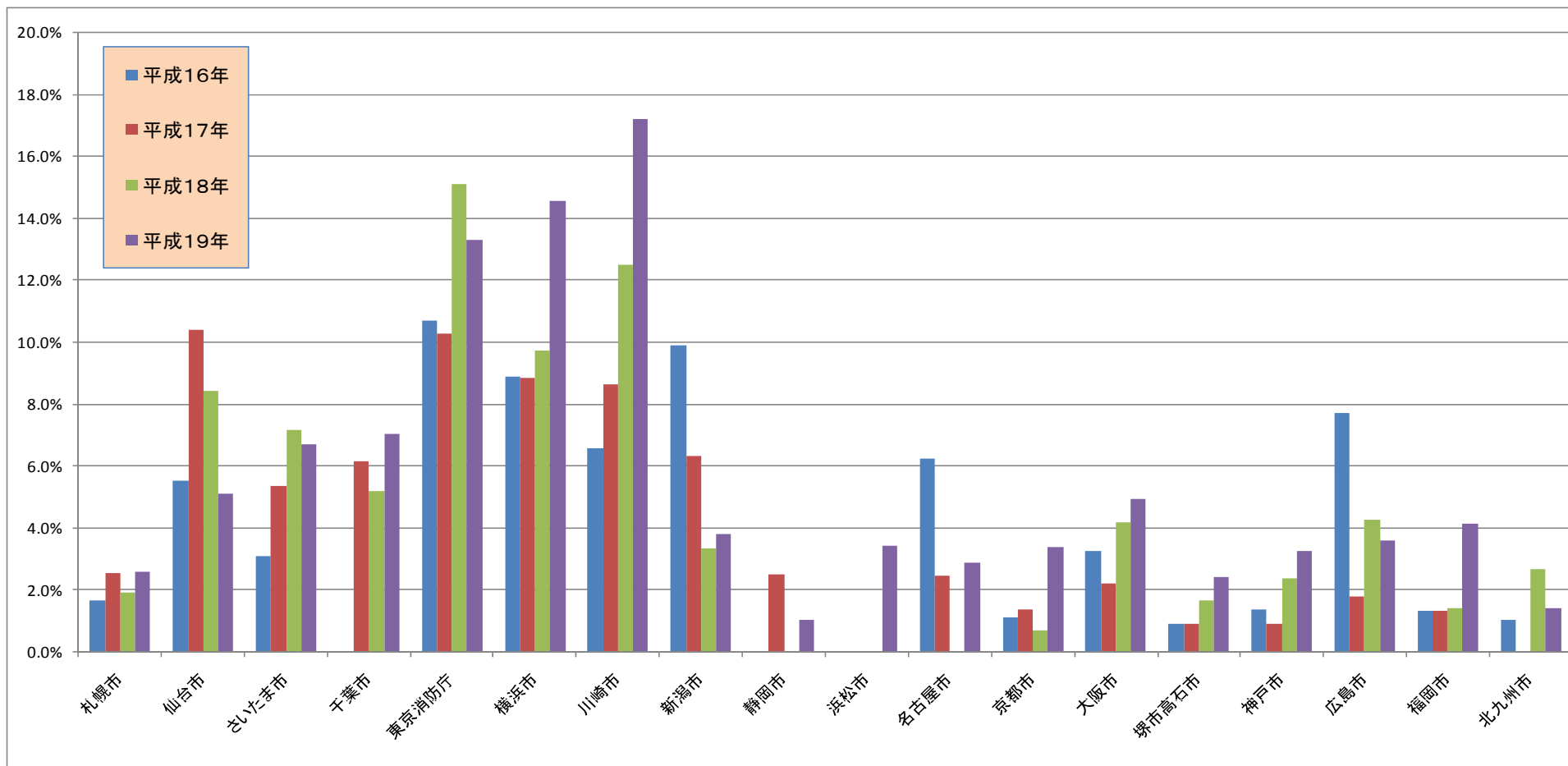
照会回数4回以上の事案の推移(件数及び割合)



照会回数4回以上の事案の割合が全国平均を上回る団体:産科・周産期傷病者(平成19年)



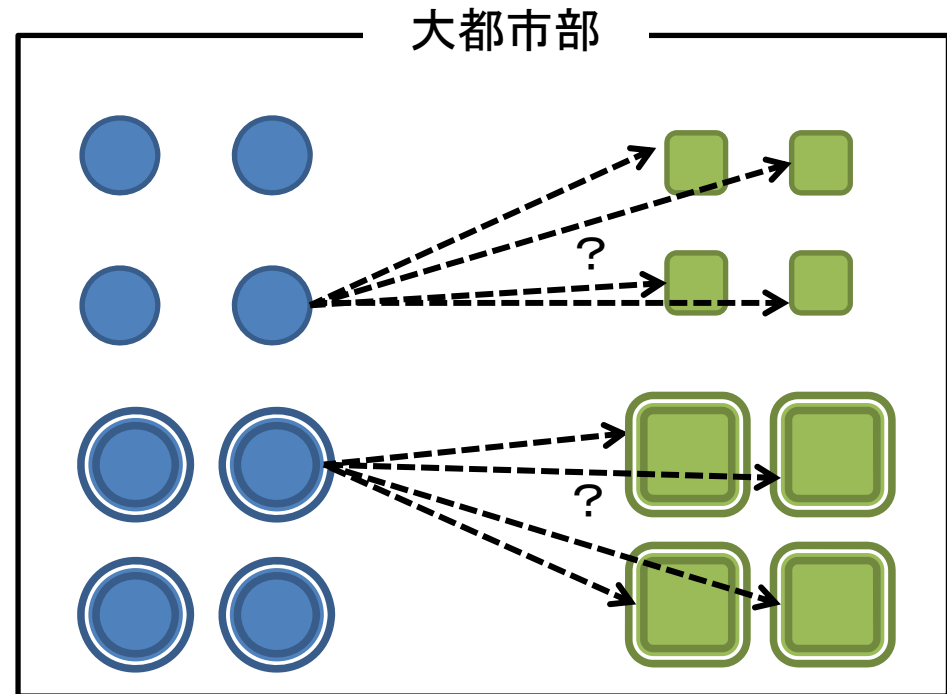
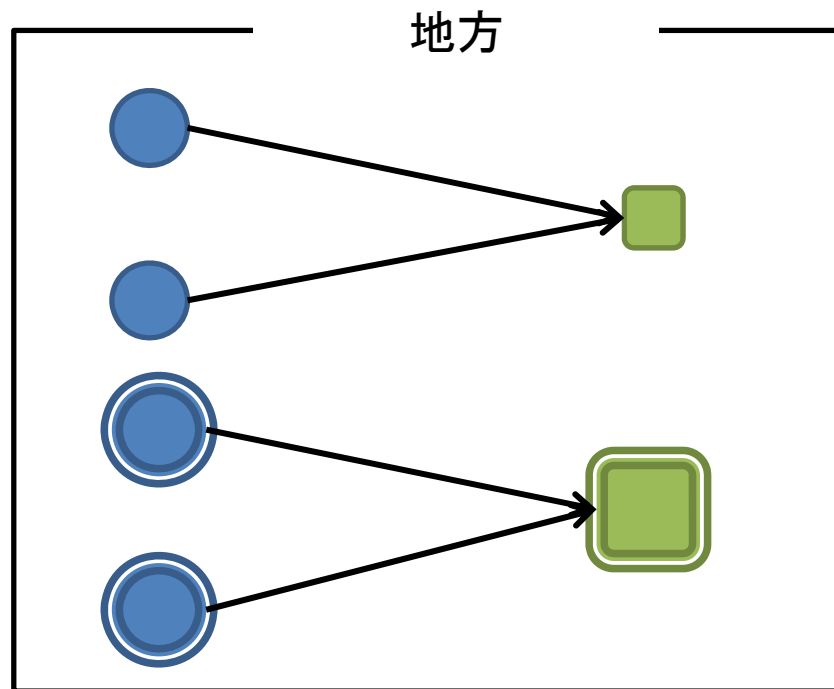
# 大都市の産科・周産期傷病者搬送事案における現場滞在時間30分以上の事案が占める割合



	札幌市	仙台市	さいたま市	千葉市	東京消防庁	横浜市	川崎市	新潟市	静岡市	浜松市	名古屋市	京都市	大阪市	堺市高石市	神戸市	広島市	福岡市	北九州市	平均
平成16年	1.6%	5.5%	3.1%	—	10.7%	8.9%	6.5%	9.9%	0.0%	0.0%	6.2%	1.1%	3.2%	0.9%	1.3%	7.7%	1.3%	1.0%	5.7%
平成17年	2.5%	10.4%	5.3%	6.1%	10.2%	8.8%	8.6%	6.3%	2.5%	0.0%	2.5%	1.3%	2.2%	0.9%	0.9%	1.8%	1.3%	0.0%	6.2%
平成18年	1.9%	8.4%	7.1%	5.2%	15.1%	9.7%	12.5%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	4.2%	1.6%	2.3%	4.3%	1.4%	2.7%	8.5%
平成19年	2.5%	5.1%	6.7%	7.0%	13.3%	14.5%	17.2%	3.8%	1.0%	3.4%	2.9%	3.4%	4.9%	2.4%	3.2%	3.6%	4.1%	1.4%	8.0%

※ 表中背景色の付いている項目は、全国平均の割合を上回るもの。

# 医療機関選定困難事案の発生の背景



傷病者の重症度・緊急度に対応する医療機関が限られており選定が容易。

救急需要、医療資源がともに多く、搬送・受入れルールが定められていない場合は、医療機関選定に時間がかかる。

医療機関側に、他により適切な医療機関があるだろうとの推測が働き、受入れの「辞退」が発生しやすい可能性がある。

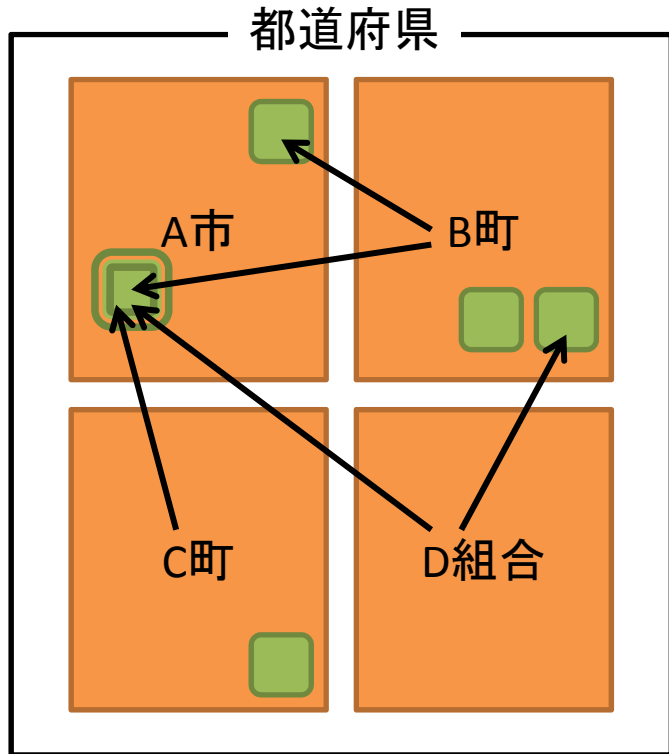
- 一般の傷病者
- ◎ 重症度・緊急度の高い傷病者

- 2次医療機関
- 3次医療機関

搬送・受入れルールの策定が必要ではないか

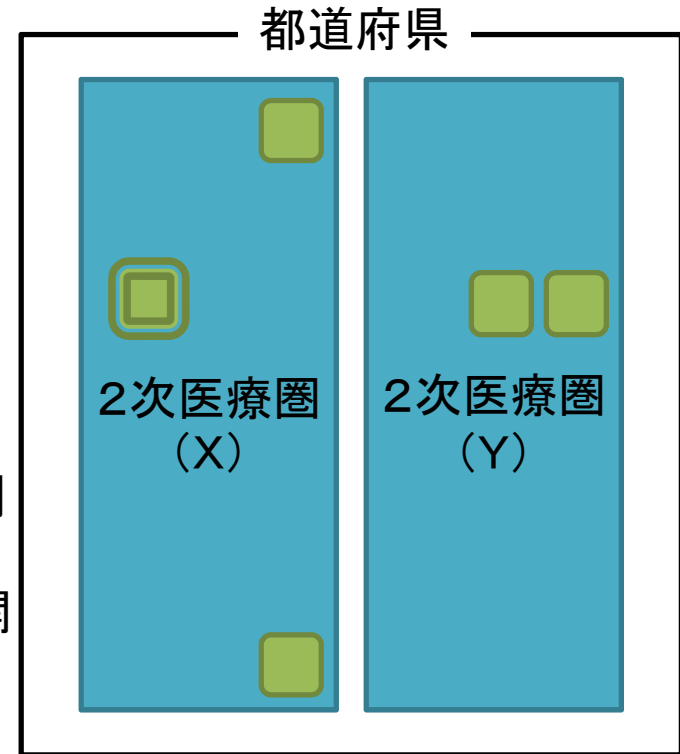
# 都道府県の役割について

## 消 防



消防業務は市町村単位で実施され、市町村を越えた救急搬送が日常的に行われている。

## 医 療



医療提供体制は都道府県が医療計画に基づき医療圏ごとに整備している。



都道府県レベルでのルール策定が必要ではないか

# 円滑な救急搬送を確保するために必要な対策について

消 防

医 療

